

# オーストラリア好配当株式オープン (毎月決算型)

&lt;3152&gt;

追加型投信／海外／株式  
日経新聞掲載名：才好配当株

第75期	2018年10月22日決算	第78期	2019年1月21日決算
第76期	2018年11月21日決算	第79期	2019年2月21日決算
第77期	2018年12月21日決算	第80期	2019年3月22日決算

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、相対的に予想配当利回りの高いオーストラリアの株式等に投資し、配当収益を確保しつつ値上がり益の獲得を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第80期末	基準価額	7,327円
	純資産総額	69百万円
第75期～第80期	騰落率	△6.4%
	分配金合計	360円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00(営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

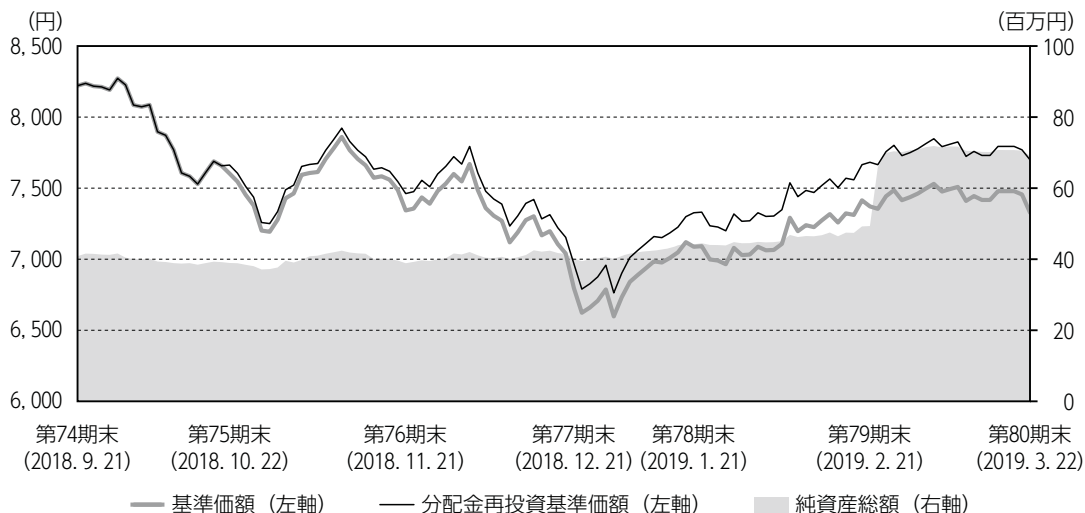
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第75期首：8,221円

第80期末：7,327円（既払分配金360円）

騰落率：△6.4%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の変動要因

オーストラリアと米国の長期金利差の拡大や投資家のリスク回避姿勢の高まりなどを背景に、オーストラリア・ドルが対円で下落したことがマイナス要因となりました。また、ポートフォリオで大きなウエートを占める金融セクターが銀行株を中心に軟調に推移したこともマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	第75期～第80期 (2018. 9. 22～2019. 3. 22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	60円	0. 808%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は7, 375円です。
(投 信 会 社)	(28)	(0. 377)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(30)	(0. 404)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(2)	(0. 026)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	4	0. 060	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(4)	(0. 049)	
(先物オプション)	(0)	(0. 000)	
(投資信託証券)	(1)	(0. 011)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	4	0. 050	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0. 042)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 006)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	68	0. 917	

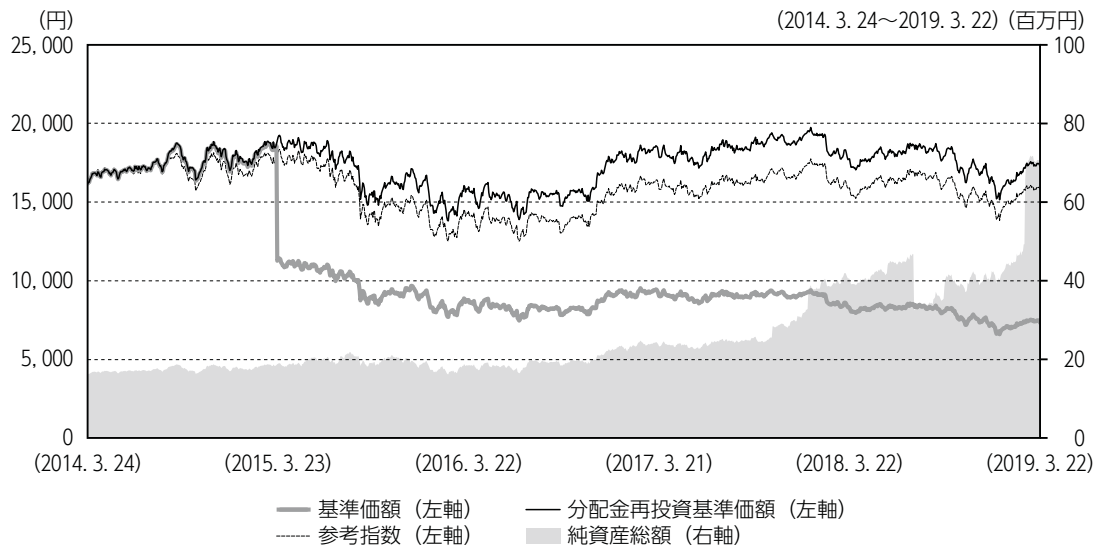
(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2014年3月24日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 参考指数は S & P / A S X 200 指数 (円換算) です。

	2014年3月24日 期初	2015年3月23日 決算日	2016年3月22日 決算日	2017年3月21日 決算日	2018年3月22日 決算日	2019年3月22日 決算日
基準価額 (円)	16,177	11,339	8,696	9,338	8,279	7,327
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	170	720	720	720	720
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	18.2	△17.2	16.8	△3.9	△2.9
S & P / A S X 200 指数 (円換算) 騰落率 (%)	—	12.4	△21.5	14.6	△2.8	△0.6
純資産総額 (百万円)	16	18	18	24	40	69

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) S & P / A S X 200 指数 (円換算) は、S & P / A S X 200 指数 (オーストラリア・ドルベース) をもとに大和投資信託が円換算したものです。S & P / A S X 200 指数 (オーストラリア・ドルベース) の所有権およびその他一切の権利は、S&P Dow Jones Indices LLC が有しています。S&P Dow Jones Indices LLC は、同指数の算出にかかる誤謬等に関し、いかなる者に対しても責任を負うものではありません。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

※2015年3月20日に受益権6口に対して10口の割合で分割を行いました。分配金再投資基準価額は受益権の分割が基準価額に与えた影響を除いています。

## 投資環境について

（2018. 9. 22 ~ 2019. 3. 22）

### ■オーストラリア株式市況

オーストラリア株式市場はおおむね横ばいで推移しました。

オーストラリア株式市場は、当作成期首から2018年10月にかけて、米国の中間選挙を前に、米国金利上昇の影響や欧州の政治リスク、中国経済の減速、米中間の貿易摩擦などを背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、下落しました。11月前半には、大きな波乱なく米国の中間選挙を終え、不確定要素が一つ消えたことによる安心感などから投資家のリスク回避姿勢が後退し、株式市場は上昇する局面もありましたが、その後12月にかけて、原油価格の下落や世界経済の減速懸念、米中間の貿易摩擦などを背景に投資家のリスク回避姿勢が再度強まり、株式市場は軟調に推移しました。2019年1月から当作成期末にかけては、各国中央銀行がハト派寄りの姿勢を示したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が後退したことや、原油や鉄鉱石などのコモディティ（商品）価格が堅調に推移したことなどから、株式市場は上昇しました。

### ■為替相場

オーストラリア・ドルは対円で下落（円高）しました。

当作成期首から2018年10月にかけて、オーストラリア・ドルは対円で下落しました。中央銀行の金融政策の違いなどからオーストラリアと米国の長期金利差は拡大傾向であり、中国経済の減速懸念とも相まってオーストラリア・ドルは軟調に推移しました。11月にかけては、大きな波乱なく米国の中間選挙を通過し投資家のリスク回避姿勢が後退したことや、予定されていた米中首脳会談への期待感などから、オーストラリア・ドルは堅調に推移しました。12月から2019年1月初めにかけては、米中間の貿易摩擦への懸念の高まりや世界経済の減速懸念、欧州の政治リスクなどから、投資家のリスク回避姿勢が強まり、オーストラリア・ドルは円に対して大きく下落しました。1月初めから当作成期末にかけては、各国中央銀行がハト派寄りの姿勢を示したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が後退し、オーストラリア・ドルは円に対して値を戻す展開となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

### ■ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド

当ファンドでは引き続き、厳しい経済環境下においても安定的なキャッシュフローを生み出すこ

とができる、強固な収益基盤を持つ企業に注目しています。また、その中でも配当という形での株主還元を重視する企業を中心に投資していく所存です。

## ポートフォリオについて

(2018. 9. 22 ~ 2019. 3. 22)

### 当ファンド

「ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド」の受益証券へ投資を行いました。

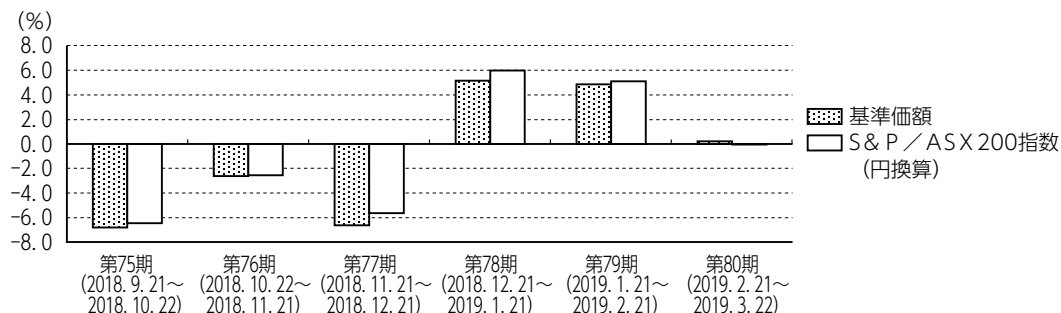
### ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド

グローバルな事業ネットワークを持ち、底堅い利益成長が見込まれた大手証券会社 MACQUARIE GROUP LTD（金融）、オーストラリア国内での個人向け住宅ローンを中心的な事業とし、アジアにもネットワークを持つ大手銀行 AUST AND NZ BANKING GROUP（金融）、中小企業向けの貸し出しに強みを持ち、構造改革の進展が期待された大手銀行 NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD（金融）、高いブランド力と強固な顧客基盤を持ち、高い収益性を誇る大手銀行 COMMONWEALTH BANK OF AUSTRALIA（金融）、オーストラリア国内での個人向け住宅ローンを主な事業とし、優れた財務基盤とともに安定した業績が予想された大手銀行 WESTPAC BANKING CORP（金融）などを高位に組み入れました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。参考指数はオーストラリア株式市場の動向を表す代表的な指数として掲載しております。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
	2018年9月22日 ～2018年10月22日	2018年10月23日 ～2018年11月21日	2018年11月22日 ～2018年12月21日	2018年12月22日 ～2019年1月21日	2019年1月22日 ～2019年2月21日	2019年2月22日 ～2019年3月22日
当期分配金(税込み) (円)	60	60	60	60	60	60
対基準価額比率 (%)	0.78	0.81	0.88	0.84	0.81	0.81
当期の収益 (円)	—	53	—	12	30	60
当期の収益以外 (円)	60	6	60	47	29	—
翌期繰越分配対象額 (円)	3,951	3,947	3,887	3,841	3,814	3,844

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円	✓ 53.39円	0.00円	✓ 12.89円	✓ 30.76円	✓ 77.82円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	3,597.84	3,627.58	3,661.59	3,674.73	3,693.27	3,743.14
(d) 分配準備積立金	✓ 413.80	✓ 326.65	✓ 286.05	✓ 213.45	✓ 150.39	83.95
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	4,011.64	4,007.63	3,947.65	3,901.07	3,874.43	3,904.93
(f) 分配金	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	3,951.64	3,947.63	3,887.65	3,841.07	3,814.43	3,844.93

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

### ■ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド

当ファンドでは引き続き、厳しい経済環境下においても安定的なキャッシュフローを生み出すことができる、強固な収益基盤を持つ企業に注目しています。またその中でも配当という形での株主還元を重視する企業を中心に投資していく所存です。



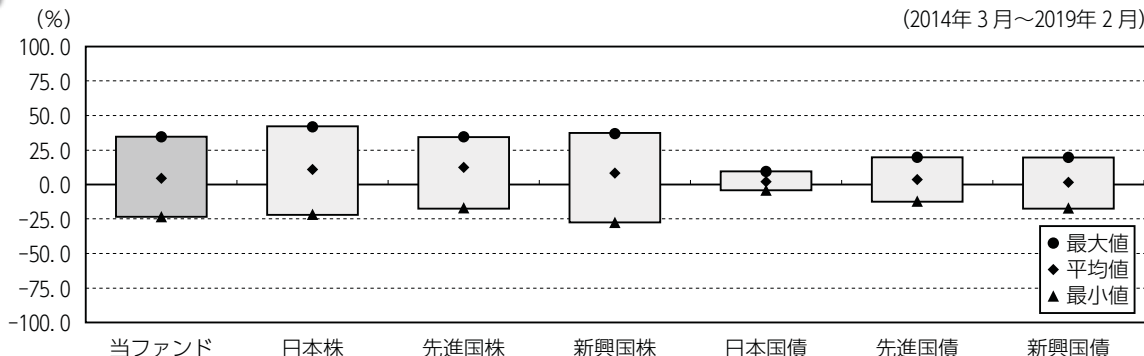


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	約10年2カ月間（2012年7月31日～2022年9月21日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンドの受益証券
	ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド	オーストラリアの金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）または店頭登録（登録予定を含みます。）の株式および不動産投資信託証券（不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券をいいます。）
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、オーストラリアの金融商品取引所上場株式等（不動産投資信託証券を含みます。以下同じ。）の中から、相対的に予想配当利回りの高い銘柄に投資し、信託財産の成長をめざします。</p> <p>②ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行なうことを基本とします。</p> <p>イ. 時価総額や流動性等を勘案して投資対象銘柄を選定します。</p> <p>ロ. 投資対象銘柄の中から、企業の利益成長性、財務内容、配当余力および配当政策等を分析し、予想配当利回りの水準が高いと判断される銘柄を中心に、組入候補銘柄を選別します。</p> <p>ハ. 株価バリュエーションや銘柄分散等を勘案してポートフォリオを構築します。</p> <p>③株式等の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	34.4	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	4.4	10.9	12.3	8.1	2.0	3.4	1.5
最小値	△ 23.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



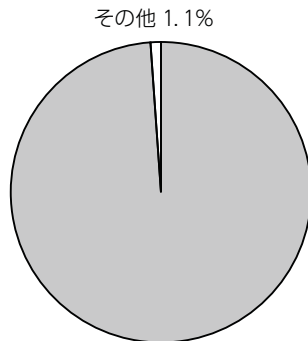
## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

#### 組入ファンド等

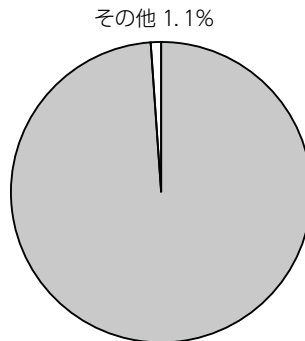
	比 率
ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド	98.9%
その他	1.1

#### 資産別配分



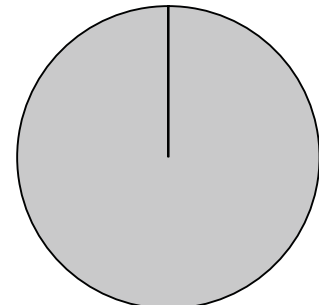
マザーファンド 98.9%

#### 国別配分



日本 98.9%

#### 通貨別配分



日本・円 100.0%

(注1) 上記データは2019年3月22日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

### 純資産等

項 目	第75期末	第76期末	第77期末	第78期末	第79期末	第80期末
	2018年10月22日	2018年11月21日	2018年12月21日	2019年1月21日	2019年2月21日	2019年3月22日
純資産総額	38,904,202円	38,848,770円	40,103,400円	44,173,142円	49,324,145円	69,161,243円
受益権総口数	51,173,494口	52,904,362口	59,000,861口	62,333,358口	66,915,081口	94,392,537口
1万円当り基準価額	7,602円	7,343円	6,797円	7,087円	7,371円	7,327円

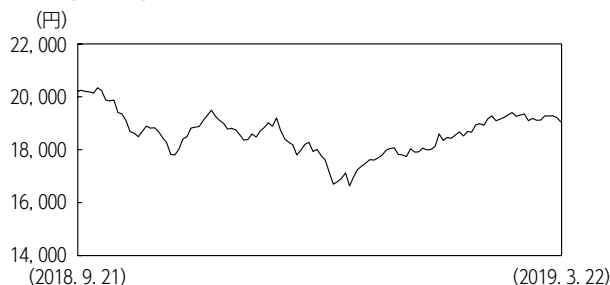
\*当作成期間（第75期～第80期）中における追加設定元本額は32,070,819円、同解約元本額は5,249,513円です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆ダイワ・オーストラリア高配当株マザーファンド（作成対象期間 2018年9月22日～2019年3月22日）

#### ■基準価額の推移



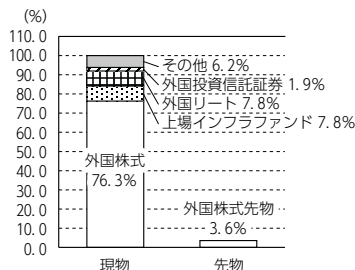
#### ■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料 (株式)	11円 (9)
(先物・オプション)	(0)
(投資信託証券)	(2)
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	9 (8)
(その他)	(1)
合計	20

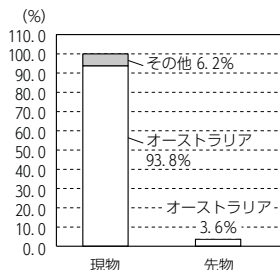
#### ■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
MACQUARIE GROUP LTD	オーストラリア・ドル	6.8%
AUST AND NZ BANKING GROUP	オーストラリア・ドル	6.4
WESTPAC BANKING CORP	オーストラリア・ドル	6.2
NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	オーストラリア・ドル	6.0
COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	オーストラリア・ドル	5.6
RIO TINTO LTD	オーストラリア・ドル	4.6
SYDNEY AIRPORT	オーストラリア・ドル	4.4
INSURANCE AUSTRALIA GROUP	オーストラリア・ドル	4.3
SUNCORP GROUP LTD	オーストラリア・ドル	4.0
SPI 200 FUTURES 201906 買	オーストラリア・ドル	3.6
組入銘柄数	70銘柄 (先物含む)	

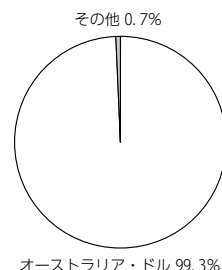
#### ■資産別配分



#### ■国別配分



#### ■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。